

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101397		
法人名	医療法人 松岡会		
事業所名	佐古グループホーム		
所在地	徳島市佐古4番町4-7		
自己評価作成日	令和3年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和3年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の尊厳や権利を尊重し、楽しく、安心して日常生活を過ごしていただけるように職員全体で心がけております。また毎日リハビリ体操・筋力トレーニングを実施しており、利用者様一人一人のレベルに応じて行い残存機能の維持をはかったり、レクリエーション・季節の行事・お誕生会等を実施しています。今年より新施設に移転した事によりハード面でも新しくなり利用者様・家族様共に喜ばれております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道路から離れた閑静な道路沿いに位置している。昨年度に事業所を移転し、採光のよい新築の建物となっている。理念に“目配り・気配り・心配り 笑顔で挨拶 地域の一員として”を掲げ、職員間で共有化を図りつつ、利用者のその人らしさを大切に支援に取り組んでいる。同一法人が運営する他サービス事業所と併設し、日ごとの取り組みや災害時の避難訓練など、協力しつつ実施している。利用者の身体機能の維持向上を大切に捉え、一人ひとりの状況にあわせて、リハビリ体操や筋力トレーニングを行っている。また、協力医療機関と連携を図り、急変時など、24時間対応可能な体制を整備している。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、少人数での散歩や趣味活動を支援したり、毎月写真入りのお便りを家族等に送付したりして、利用者や家族等の安心につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の目につくところに掲示しており、常に職員全員で共有し意識づけを行い日々の実践につなげている。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。理念をホールに掲示したり、職員会議等の機会に話しあったりして、共有化を図っている。毎年、理念を見直し、日ごろの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新しく移転した場所の町内会に加入させてもらっており、地域の行事・情報等が得られ施設の事も認知してもらっており地域の一員として交流に努めている。	事業所は、近隣を散歩した際に、地域住民と挨拶を交わすなど、日常的に交流している。近隣から介護相談を受けることもある。また、町内会に加入し、清掃活動に参加等しているが、管理者は、より積極的かつ広範囲な繋がりを検討している。	今後は、民生委員等、地域の関係者とのかかわりを深めつつ、利用者や地域とのつながりを継続することができるよう、さらなる取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会・近隣住民の方々に施設の説明を行い、認知症に対する理解をもらっている。また近隣の方からの相談ごとにも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症流行の為、外部の方の来所・面会等を事業所全体でお断りしている為、会議の実施を中止している。	事業所では、感染症(コロナ等)の流行に伴い、運営推進会議が実施できていないため、開催方法を検討している。随時、民生委員や市の担当者など、関係機関と連絡を取りつつ、関係性の継続に努めている。	今後は、運営推進会議の意義について再確認するとともに、書面による会議を実施するなど、定期的な開催を検討することが望まれる。市の担当者等と協議しつつ、サービスの質の向上に向けて継続的に取り組むことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実績報告書を提出する際に、直接相談・意見交換を行い協力関係を築いている。	管理者は、定期的に、市の担当窓口を訪問している。事業所の現状等について、担当者に報告し、情報や助言などを得ている。また、困難事例等については、地域包括支援センターとも連携を図るなど、協力関係を整備している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束の内容・弊害を認識し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所では、年2回、身体拘束に関する研修会を開催している。身体拘束マニュアルも整備し、職員間で拘束の内容・弊害について理解・徹底を図っている。利用者の希望に応じて、職員と一緒にベランダに出るなど、閉塞感がないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日々虐待が見過ごされることがないよう、職員間でしっかりコミュニケーションをとり、相互で注意し合うようにつとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がおられるので、理解し共通認識となるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約・改定時十分に説明し理解・納得して頂いている。また疑問点があった時には、個別に随時相談にのり話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置を行ったり、面会時には日々の利用者様の状況を細かくお伝えし、世間話を交え気軽に意見や要望を聞かせていただき、運営に活かすように努めている。	事業所では、日ごろの支援のなかで、利用者の意向等を把握している。家族等の来訪時にも、意見や要望等を聞き取っている。毎月、写真入りのホームだよりを作成・送付するなど、意見を出しやすいよう工夫している。出された意見は、職員間で検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕の申し送り時を含め、随時職員の意見・提案をくみ取り会議にて意見交換を行い、内容に応じて代表者に進言し活かされるように努めている。	管理者は、日ごろの朝礼や業務中、毎月の職員会議などの機会に、職員の意見や要望等を聞き取っている。定期的に、代表者の来訪もある。出された意見等は、職員会議等で協議・検討し、職員一人ひとりの力量を活かすことができるよう、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の努力・実績は管理者から報告を行っており、把握してもらっている。また意見や相談の機会が持てる環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護の経験・段階に応じてアドバイスをおこなっている。また研修に参加しやすいよう勤務の配慮を行いサービスの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の活動・共同行事の機会を設け、他施設の方と交流を深めたりしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なるべく早く不安を取り除き、安心して過ごしていただけるようにコミュニケーションに気を配り、訴えにはしっかり傾聴し信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時より家族様より困っている事・要望に耳を傾け、常に電話や面会時に話し合いや相談をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の情報だけを鵜呑みせず、現状を把握しながら必要な支援を見極め 段階に応じた支援・対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側・される側という意識は持たず、人生の先輩として敬う姿勢を心がけている。また一緒に笑い支え合う関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族様の双方の協力や信頼関係によってより良い支援ができるように、お便りや面会時に近況報告・意見交換を行い共に本人を支えていく関係が築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様・知人との電話でのやりとりや、面会時に2階の窓際へ利用者様を誘導し、1階の家族様と顔が見え 声が聞こえ直接会話が出来るようにしている。	事業所では、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの関係性が途切れないよう、支援している。感染症の流行下において、窓越し面会を実施したり、電話の取次ぎを行ったりして、馴染みの関係性の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の相関関係を把握し、居場所作りを心がけ利用者様同士が安心して関わり合いを持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転所により退所となった場合、面会や連絡を必要に応じて行い、利用者様の情報を細かに伝え家族様からの相談や支援につとめている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との関わりの中で、本人の意向、好物や興味のあることの把握に努めている。またテレビや新聞・写真等を見ている時の表情を見極めコミュニケーションをとりながら細かな事を拾えるように心がけている。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、本人の言葉や表情、仕草などから、希望や意向の把握に努めている。意思の表出が困難な場合は、家族や知人等から情報を得つつ、職員間で共有化を図り、本人本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの情報に加え、個人の生活歴を大切にし日々の関わりの中で分かってくる事をしっかり把握し馴染みの関係作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その時に応じて各利用者様の心身状態・できる事 出来ないことを見直し、職員全体で情報共有し把握し支援につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング・カンファレンス等にて意見を出し合い利用者様本意の支援計画を立て、モニタリングも日々の記録で行っている。状態変化時には家族様とも相談し計画に反映させている。	事業所では、利用者や家族等の意見を踏まえた介護計画を作成している。必要に応じて、主治医や看護師等、専門的な立場からの意見も得ている。定期的なモニタリングや見直しのほか、随時、心身状況の変化に応じた見直しを行うなど、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化の気づき、ケアの実施を個別記録・メモノートに記入し情報共有を行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制が整っており、状況に応じて訪問診療を行い支援している。また利用者様のかかりつけ医への受診の段取り・診察の予約・家族様の要望に応じ柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に入っており、地域の行事や情報が得られるため積極的に参加していきたいと思っている。また利用者様のニーズに応じて訪問歯科・訪問理美容に来てもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は事業所側の押しつけではなく、利用者・家族様の希望を優先する事を説明し理解して頂いた上で適切な医療が受けられるように支援している。他科受診・訪問歯科等要望に応じて支援している。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門科を受診する際は、家族等の協力を得ている。協力医療機関と連携を図り、24時間連絡可能な体制を整備している。また、月2回歯科の往診があるなど、適切な医療受診に向けて取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をとっている看護師とは、適時報告し相談を行っている。週に2回訪問看護で来所されるので、その場でも指示を受け適切なケアとなるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時には職員が様子を見に行き、病院関係者と情報交換や相談に努め、早期退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化・看取りの方針を説明し家族様の意思を確認している。また利用者様の状態の変化に応じて医師・看護師と話し合い家族様に報告・説明を行い、今後の状況に応じて対応 支援が出来るように取り組んでいる。	事業所では、入所時の段階で、重度化や看取り等に関する指針について、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。本人の心身状況の変化に応じて、意向を確認しつつ、かかりつけ医や関係機関等と方針を共有し、チームで支援する体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って慌てず職員が対応出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回災害時の避難訓練・消火器使用訓練を実施している。併設しているデイサービスとも合同で実施して協力体制を築いている。	年2回、消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。日中・夜間における、火災・地震・水害等を想定し、併設の他サービス事業所と協力しつつ取り組んでいる。2週間分の食料等を備蓄し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の性格を理解し、人格を尊重した呼び方・言葉がけに職員全員で注意を払い対応している。	事業所では、年1回、権利擁護やプライバシーなどに関する研修会を開催し、職員間で意識の共有化を図っている。職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で利用者様が自分で決定出来やすいように声かけをおこなったり、どちらが良いか表情やうなずきで判断出来るように工夫して支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに沿ってゆったりと見守り、その日の体調・気分に応じて本人の気持ちを尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各利用者様が自由に好みの装いが出来るように支援している。本人の希望によって眉毛を描いたり化粧の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の調理は法人の運営上行っていないが、お絞りを巻いてもらったり、トレーを拭いてもらったりして片付けを共に協力して出来るようにしている。	食事は、管理栄養士が作成した献立をもとに、事業所で調理したものを提供している。五感刺激を考慮しつつ、利用者の好みや旬の食材を取り入れ、食事を楽しむことができるよう工夫している。また、配膳や片付けなど、できることを一緒に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎回チェックし職員全体で情報を共有している。また個人の状態に応じて刻み・ミキサー食を提供している。水分補給もその人に応じた内容物や時間帯で提供して必要な摂取量確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人に応じて声かけや介助を行い口腔ケアを行っている。希望者には訪問歯科に来てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その時の状態に合わせ、利用者様一人ひとりの排泄状況を把握し介助を行い、残存機能を活かし出来るだけトイレでの排泄を促し自立に向けた支援をしている。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄支援に取り組んでいる。プライバシーを損ねることのないよう、言葉かけなどに配慮している。できる限りトイレで排泄することができるよう、夜間のトイレ誘導等もやっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の運動・水分摂取量の確保・腹部マッサージを行い自然排便につながるように支援している。家族様が乳酸菌飲料を定期的に持ってきてくれる方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日・時間の設定はあるが要望に応じて柔軟に対応している。声かけの仕方や時間帯を変えたり無理強いをしないように心がけ、利用者様の心身状態に応じた支援を行っている。	事業所では、週3回は入浴することができるよう支援している。希望に応じて、同性介助を行うなど、羞恥心に配慮している。また、季節ごとの入浴剤を使用したり、ゆず湯やしょうぶ湯を行ったりして、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促しそれぞれの身体状況にあった生活リズムの把握に努めており、安心して休息・安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を各ケースに整理し、いつでも内容を把握出来るようにしている。服薬確認・介助に気を配り症状の変化が見られたときには速やかに医師に報告し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人の現存能力を把握し、その人に合った趣味・役割・楽しみ事が出来るように提供し支援をおこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の流行において人と接する外出が困難であるが、施設周辺の散歩や2階のバルコニーでの日光浴等を楽しまれている。	事業所では、年間及び月間計画を作成し、計画的な外出支援に取り組んでいる。感染症の流行下においては、気候のよい日に少人数で散歩に出かけたり、バルコニーで日光浴を楽しんだりして、安全面に配慮した支援を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所にて管理しているが、本人所持の場合には家族様と相談している。預かり金の使用状況を毎月出納帳のコピーを家族様に送っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の要望に応じて電話をかけ、話が出来るように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁や廊下に季節感が自然に味わえ感じられるように飾り・写真を掲示し雰囲気作りをしている。また自分の居室が分かりやすいように写真付きの表札を作っている。	共用空間は、清掃が行き届いている。利用者と一緒に制作した作品や写真等を飾り、季節感を感じることができるようになっている。日当たりもよく、居心地よく過ごすことができる空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の相関関係を把握し、座席の位置を考慮している。ソファでゆったりとくつろいだり、テレビを見たり出来る空間作り・配置の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く、安心して過ごして頂けるように、寝具・家具等慣れ親しんだ物を自由に持ち込んで頂けるように勧めている。	居室には、利用者の馴染みの家具や写真、作品を持ち込んでもらうことで、居心地よく過ごすことができるようになっている。家具の配置を工夫し、安全面に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・風呂等手すりを付けバリアフリーはもとより、各部屋に写真入りの表札・トイレの表示を分かりやすく掲示し、利用者様の認識間違いを減らし安心して生活出来るようにしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の目につくところに掲示しており、常に職員全員で共有し意識づけを行い日々の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新しく移転した場所の町内会に加入させてもらっており、地域の行事・情報等が得られ施設の事も認知してもらっており地域の一員として交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会・近隣住民の方々に施設の説明を行い、認知症に対する理解をしてもらっている。また近隣の方からの相談ごとにも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症流行の為、外部の方の来所・面会等を事業所全体でお断りしている為、会議の実施を中止している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実績報告書を提出する際に、直接相談・意見交換を行い協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束の内容・弊害を認識し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々虐待が見過ごされることがないように、職員間でしっかりコミュニケーションをとり、相互で注意し合うようにとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がおられるので、理解し共通認識となるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約・改定時十分に説明し理解・納得して頂いている。また疑問点があった時には、個別に随時相談にのり話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置を行ったり、面会時には日々の利用者様の状況を細かくお伝えし、世間話を交え気軽に意見や要望を聞かせていただき、運営に活かすように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕の申し送り時を含め、随時職員の意見・提案をくみ取り会議にて意見交換を行い、内容に応じて代表者に進言し活かされるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の努力・実績は管理者から報告を行っており、把握してもらっている。また意見や相談の機会が持てる環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護の経験・段階に応じてアドバイスをおこなっている。また研修に参加しやすいよう勤務の配慮を行いサービスの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の活動・共同行事の機会を設け、他施設の方と交流を深めたりしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なるべく早く不安を取り除き、安心して過ごしていただけるようにコミュニケーションに気を配り、訴えにはしっかり傾聴し信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時より家族様より困っている事・要望に耳を傾け、常に電話や面会時に話し合いや相談をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の情報だけを鵜呑みせず、現状を把握しながら必要な支援を見極め 段階に応じた支援・対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側・される側という意識は持たず、人生の先輩として敬う姿勢を心がけている。また一緒に笑い支え合う関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族様の双方の協力や信頼関係によってより良い支援ができるように、お便りや面会時に近況報告・意見交換を行い共に本人を支えていく関係が築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様・知人との電話でのやりとりや、面会時に2階の窓際へ利用者様を誘導し、1階の家族様と顔が見え 声が聞こえ直接会話が出来るようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の相関関係を把握し、居場所作りを心がけ利用者様同士が安心して関わり合いを持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転所により退所となった場合、面会や連絡を必要に応じて行い、利用者様の情報を細かに伝え家族様からの相談や支援につとめている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との関わりの中で、本人の意向好物や興味のあることの把握に努めている。またテレビや新聞・写真等を見ている時の表情を見極めコミュニケーションをとりながら細かな事を拾えるように心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの情報に加え、個人の生活歴を大切にし日々の関わりの中で分かってくる事をしっかり把握し馴染みの関係作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その時に応じて各利用者様の心身状態・できる事 出来ないことを見直し、職員全体で情報共有し把握し支援につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング・カンファレンス等にて意見を出し合い利用者様本意の支援計画を立て、モニタリングも日々の記録で行っている。状態変化時には家族様とも相談し計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化の気づき、ケアの実施を個別記録・メモノートに記入し情報共有を行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制が整っており、状況に応じて訪問診療を行い支援している。また利用者様のかかりつけ医への受診の段取り・診察の予約・家族様の要望に応じ柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に入っており、地域の行事や情報が得られるため積極的に参加していきたいと思っている。また利用者様のニーズに応じて訪問歯科・訪問理美容に来てもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は事業所側の押しつけではなく、利用者・家族様の希望を優先する事を説明し理解して頂いた上で適切な医療が受けられるように支援している。他科受診・訪問歯科等要望に応じて支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をとっている看護師とは、適時報告し相談を行っている。週に2回訪問看護で来所されるので、その場でも指示を受け適切なケアとなるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時には職員が様子を見に行き、病院関係者と情報交換や相談に努め、早期退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化・看取りの方針を説明し家族様の意思を確認している。また利用者様の状態の変化に応じて医師・看護師と話し合い家族様に報告・説明を行い、今後の状況に応じて対応 支援が出来るように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って慌てず職員が対応出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回災害時の避難訓練・消化器使用訓練を実施している。併設しているデイサービスとも合同で実施して協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の性格を理解し、人格を尊重した呼び方・言葉がけに職員全員で注意を払い対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で利用者様が自分で決定出来やすいように声かけをおこなったり、どちらが良いか表情やうなずきで判断出来るように工夫して支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに沿ってゆったりと見守り、その日の体調・気分配慮して本人の気持ちを尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各利用者様が自由に好みの装いが出来るように支援している。本人の希望によって眉毛を描いたり化粧の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の調理は法人の運営上行っていないが、お絞りを巻いてもらったり、トレーを拭いてもらったりして片付けを共に協力して出来るようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎回チェックし職員全体で情報を共有している。また個人の状態に応じて刻み・ミキサー食を提供している。水分補給もその人に応じた内容物や時間帯で提供して必要な摂取量確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人に応じて声かけや介助を行い口腔ケアを行っている。希望者には訪問歯科に来てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その時の状態に合わせ、利用者様一人ひとりの排泄状況を把握し介助を行い、残存機能を活かし出来るだけトイレでの排泄を促し自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の運動・水分摂取量の確保・腹部マッサージを行い自然排便につながるよう支援している。家族様が乳酸菌飲料を定期的に持ってきてくれる方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日・時間の設定はあるが要望に応じて柔軟に対応している。声かけの仕方や時間帯を変えたり無理強いをしないように心がけ、利用者様の心身状態に応じた支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促しそれぞれの身体状況にあった生活リズムの把握に努めており、安心して休息・安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を各ケースに整理し、いつでも内容を把握出来るようにしている。服薬確認・介助に気を配り症状の変化が見られたときには速やかに医師に報告し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人の現存能力を把握し、その人に合った趣味・役割・楽しみ事が出来るように提供し支援をおこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の流行において人と接する外出が困難であるが、施設周辺の散歩や2階のバルコニーでの日光浴等を楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所にて管理しているが、本人所持の場合には家族様と相談している。預かり金の使用状況を毎月出納帳のコピーを家族様に送っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の要望に応じて電話をかけ、話が出来るように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁や廊下に季節感が自然に味わえ感じられるように 飾り・写真を掲示し雰囲気作りをしている。また自分の居室が分かりやすいように写真付きの表札を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の相関関係を把握し、座席の位置を考慮している。ソファでゆったりとくつろいだり、テレビを見たり出来る空間作り・配置の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く、安心して過ごして頂けるように、寝具・家具等慣れ親しんだ物を自由に持ち込んで頂けるように勧めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・風呂等手すりを付けバリアフリーはもとより、各部屋に写真入りの表札・トイレの表示を分かりやすく掲示し、利用者様の認識間違いを減らし安心して生活出来るようにしている。		